



第 90 回 日本細菌学会関東支部総会

講演抄録集

期 日：平成 19 年 10 月 12 日(金) 13 日(土)

会 場：国立感染研究所 戸山庁舎会議室

会 長：荒川 宜親 (国立感染症研究所 細菌第二部長)

*Japanese Society for
Bacteriology*

第90回
日本細菌学会関東支部総会
講演抄録集

総会長：荒川宜親(国立感染症研究所)

期 日：平成19年10月12日(金)～13日(土)

会 場：国立感染症研究所戸山庁舎 第1会議室
東京都新宿区戸山1-23-1
電話 03-5285-1111

PROGRAM

評議委員会	: 10月12日(金)	12:15～13:30
会務総会	: 10月12日(金)	13:30～14:00
情報交換会	: 10月12日(金)	18:30～
新感染症レクチャー	: 10月13日(土)	10:00～12:00
パネルディスカッション	: 10月13日(土)	14:00～16:00

10月12日 金

10月13日 土

10:00	10:00~10:15 会長挨拶 会長：荒川 宜親 国立感染症研究所細菌第二部長	10:00~12:00 新感染症レクチャー 日常診療に役立つ 細菌学アップデート (5題) 司会：甲斐 明美 東京都健康安全研究センター 微生物部 加藤 はる 国立感染症研究所細菌第二部
11:00	10:15~11:15 一般演題 I (4題) 座長：田口 晴彦 杏林大学 保健学部 免疫学研究室	
12:00	11:15~12:15 一般演題 II (4題) 座長：田村 敏生 感染症研究所ハンセン病研究センター 病原微生物部	
13:00	昼 食	昼 食
14:00	13:30~14:00 会務総会	
15:00	14:00~15:00 一般演題 III (4題) 座長：寺嶋 淳 感染症研究所細菌第一部	14:00~16:00 パネルディスカッション 医療関係者、微生物研究者が 細菌学会に期待するもの (5題) 司会：北里 英郎 北里大学医療衛生学部 微生物学研究室 荒川 宜親 国立感染症研究所細菌第二部
16:00	15:00~16:00 一般演題 IV (4題) 座長：伊豫田 淳 感染症研究所細菌第一部	16:00~ 閉会の辞 会長：荒川 宜親
17:00	16:00~17:00 一般演題 V (4題) 座長：遠藤美代子 東京都健康安全研究センター微生物部	
18:00		
19:00	18:30~20:00 懇親会	
20:00		

一般演題 I (10:15～11:15)

座長：田口 晴彦(杏林大学 保健学部 免疫学研究室)

I-1 Effects of short-chain fatty acid on the expression of adhesion molecules in inhibiting butyric-acid induced T- cell apoptosis

○落合 邦康¹⁾、藤岡 隼¹⁾、栗田-落合 智子²⁾
日本大学歯学部細菌学教室¹⁾ 日本大学松戸歯学部感染免疫²⁾

I-2 黄色ブドウ球菌 β -hemolysin による血管内皮細胞 IL-8 産生の抑制と好中球浸潤阻害

○田嶋重紀子、関 啓子、進士ひとみ、岩瀬 忠行、水之江義充
東京慈恵医大・細菌学

I-3 臨床分離腸球菌 *E. faecalis* YI714 から分離されたバクテリオシンプラスミド pYI14 にコードされる腸球菌バクテリオシン Bac41 の発現機構

○富田 治芳¹⁾、池 康嘉^{1,2)}
群馬大学大学院・細菌感染制御学¹⁾ 同薬剤耐性菌実験施設²⁾

I-4 ガス壊疽菌群コラゲナーゼの基質認識機構と薬物送達システムへの応用

○松下 治
北里大・医・微生物・寄生虫学

一般演題 II (11:15～12:15)

座長：田村 敏生(感染症研究所ハンセン病研究センター病原微生物部)

II-1 結核菌由来ポリリン酸キナーゼの機能解析

○森 茂太郎、柴山 恵吾、朴 貞玉、荒川 宜親
国立感染症研究所 細菌第二部

II-2 結核菌分泌蛋白による Th1 分化誘導機構の解析：TCR による抗原認識の役割

○下袴田陽子^{1,2)}、田村 敏生²⁾、牧野 正彦²⁾、高津 聖志³⁾
東京大学医科学研究所炎症免疫分野¹⁾ 国立感染症研究所ハンセン病研究センター病原微生物部²⁾
富山県立薬事研究所³⁾

II-3 結核菌感染マクロファージにおける膜小胞輸送機構のイメージ解析

○瀬戸真太郎、小出 幸夫
浜松医科大学感染症学講座

II-4 *Mycobacterium avium* complex における fucose 含有糖脂質抗原の生合成解析

○宮本 友司¹⁾、向井 徹¹⁾、前田 百美¹⁾、甲斐 雅規¹⁾、中田 登¹⁾、
中 崇²⁾、矢野 郁也²⁾、牧野 正彦¹⁾
国立感染症研究所・ハンセン病研究センター・病原微生物部¹⁾ BCG 中央研究所²⁾

一般演題 III (14:00～15:00)

座長：寺嶋 淳(感染症研究所細菌第一部)

III-1 緑膿菌のクオラムセンシング制御機構

○田渕 史晃¹⁾、高屋 明子¹⁾、磯貝恵美子²⁾、山本 友子¹⁾
千葉大・院薬・微生物薬品化学¹⁾ 北医大・歯・口腔衛生²⁾

III-2 サルモネラ Lon プロテアーゼによるべん毛発現制御

○松井 真理、高屋 明子、大久保里恭、山本 友子
千葉大・院薬・微生物薬品化学

III-3 サルモネラの PagC-OMV による病原性発現調節

○石川 秀人¹⁾、高屋 明子¹⁾、水之江義充²⁾、高出 明美²⁾、磯貝恵美子³⁾、
吉田 真一²⁾、山本 友子¹⁾
千葉大・院薬・微生物薬品化学¹⁾ 九大院・医・細菌²⁾ 北海道医療大・歯・口腔衛生³⁾

III-4 新興型腸炎ビブリオ O3:K6 株と O4:K68 株の O および K 抗原の合成に関わる遺伝子群の比較解析

○大倉 正稔¹⁾、大澤 朗¹⁾、徳永 暁彦¹⁾、森田 昌知²⁾、荒川 英二²⁾、
渡邊 治雄²⁾
神戸大院・農¹⁾ 感染研・細菌第一²⁾

一般演題 IV (15:00～16:00)

座長：伊豫田 淳(感染症研究所細菌第一部)

IV-1 腸管出血性大腸菌 O157 Lrp 様転写因子群による転写制御

○吉田 祐輔¹⁾、小山田智哉¹⁾、横山 勝志^{2,3)}、鈴木 理²⁾、牧野 耕三¹⁾
防衛大・応化¹⁾ 産総研・脳神経情報(AIST)²⁾ 科技機構(JST)³⁾

IV-2 腸管出血性大腸菌 O157 に存在する二成分制御系の解析

○牧野 耕三¹⁾、小山田智哉¹⁾、吉田 祐輔¹⁾、横山 勝志^{2,3)}
防衛大・応化¹⁾ 産総研・脳神経情報(AIST)²⁾ 科技機構(JST)³⁾

IV-3 腸管出血性大腸菌 O157 ゲノムにおける CRP レギュロンの網羅的解析

○小山田智哉¹⁾、横山 勝志^{2,3)}、吉田 祐輔¹⁾、牧野 耕三¹⁾
防衛大・応化¹⁾ 産総研・脳神経情報(AIST)²⁾ 科技機構(JST)³⁾

IV-4 *Mycoplasma hyopneumoniae* の P97 adhesin 抗原は豚末梢血単核球から IL-8 を誘導する

○下地 善弘¹⁾、大石 英司²⁾、宗田 吉広¹⁾、彦野 弘一¹⁾、小川 洋介¹⁾、
森 康行¹⁾
動物衛生研究所¹⁾ 京都微研²⁾

一般演題 V (16:00～17:00)

座長：遠藤美代子(東京都健康安全研究センター微生物部)

V-1 ゼラチンディスク乾燥法による菌株の長期保存に関する検討

○大越 将貴、佐竹 幸子

群馬大学医学部保健学科

V-2 東京都内で分離された毒素原性大腸菌の性状

○小西 典子、尾畑 浩魅、下島優香子、上原さとみ、門間 千枝、仲真 晶子、
甲斐 明美、矢野 一好

東京都健康安全研究センター・微生物部

V-3 肺炎マイコプラズマの分離状況、薬剤感受性及び P1 蛋白遺伝子解析

○岡崎 則男¹⁾、大屋日登美¹⁾、鈴木五三男²⁾、大谷 勝実³⁾、成田 光生⁴⁾、
佐々木次雄⁵⁾

神奈川県衛生研究所¹⁾ 茅ヶ崎市立病院²⁾ 山形県衛生研究所³⁾ 札幌鉄道病院⁴⁾
国立感染症研究所⁵⁾

V-4 自治医科大学附属病院におけるバチルス・セレウスの血液検出アウトブレイクと 環境汚染

○平井 義一、林 俊治、下村 裕史、松浦 基博

自治医科大学感染・免疫学・附属病院臨床感染症センター

平成19年10月13日(土)

新感染症レクチャー (10:00～12:00)

日常診療に役立つ細菌学アップデート

司会：甲斐 明美(東京都健康安全研究センター微生物部)
加藤 はる(国立感染症研究所細菌第二部)

1. マクロライド耐性マイコプラズマ肺炎への対応
佐々木次雄(国立感染症研究所 細菌第二部)
2. 真菌症起因菌の臨床的問題とその対策
槇村 浩一(帝京大学医真菌研究センター)
3. 口腔嫌気性菌による重症感染症の基礎と臨床
—1本の虫歯からこんなことに……—
坂本 春生(東海大学医学部附属八王子病院 口腔外科)
4. *Clostridium difficile* 感染症と近年の疫学的変化
加藤 はる(国立感染症研究所 細菌第二部)
5. 感染症検査の最新情報と検査の実情
川上小夜子(帝京大学医学部附属病院 中央検査部)

パネルディスカッション(14:00～16:00)

医療関係者、微生物研究者が 細菌学会に期待するもの

司会：北里 英郎(北里大学医療衛生学部微生物学研究室)
荒川 宜親(国立感染症研究所細菌第二部)

パネリスト

1. 山崎 勉 小児科学：埼玉医科大学小児科
2. 川上 由行 臨床検査学：信州大学保健学科
3. 洪 愛子 看護学：(社)日本看護協会 認定部
4. 横山 栄二 獣医学：千葉県衛生研究所
5. 関水 和久 薬学：東京大学薬学部細胞生化学
6. 武内 博朗 歯学：国立保健医療科学院

10月12日 金

[第 1 日]

一般演題

Effects of short-chain fatty acid on the expression of adhesion molecules in inhibiting butyric-acid induced T- cell apoptosis

○落合 邦康¹⁾、藤岡 隼¹⁾、栗田-落合 智子²⁾

日本大学歯学部細菌学教室¹⁾ 日本大学松戸歯学部感染免疫²⁾

Objective: Short-chain fatty acids (SCFA), an extracellular metabolite from periodonto- pathic bacteria, especially butyric acid induces apoptosis in human and murine T cells and exerts immunomodulatory properties We demonstrated that human gingival fibroblasts rescue butyric acid-induced T-cell apoptosis via the proinflammatory cytokines, which were produced in fibroblasts stimulated with butyric acid. The numbers of Jurkat T-cells adhered to gingival fibroblasts were significantly increased by addition of butyric acid. All Jurkat cells adhered to Gin- 1 cells were live cells in contrast to non-adhere cells drop into apoptosis. Butyric acid-induced T- cell apoptosis in down-regulated by the adhesion to gingival fibroblasts through the interaction with the adhesion molecules expressed on T cells. Therefore, to evaluate which adhesion molecule promotes this cell-cell communication, we studied the effect of SCFA on the expression of these molecules. Methods: Jurkat T-cells and gingival fibroblasts (Gin-1) were employed in T-cell adhesion assay. Apoptosis was evaluated by the method described previously(Infect. Immun., 2004, 72,5947). Results: T-cell adherence to fibroblasts is enhanced by butyric acid by the expression of adhesion molecules such as CD44, VLA-2 and VLA-5. Butyric acid-treatment stimulates the expression of CD44 and down-regulates apoptosis. Conclusion: T cells may sense the change of environments by the concentration of SCFA in gingival tissue. Fibroblasts contribute to maintaining local immunity and gingival tissue in a good state. This study was supported by scientific grants-in aid 16591834 and 20130594 from the Ministry of Education, Science, and Culture of Japan.

黄色ブドウ球菌 β -hemolysin による血管内皮細胞 IL-8 産生の抑制と好中球浸潤阻害

○田嶋亜紀子、関 啓子、進士ひとみ、岩瀬 忠行、水之江義充

東京慈恵医大・細菌学

黄色ブドウ球菌は、表在性の皮膚感染症から心内膜炎のような深在性感染症まで幅広い感染症を引き起こす病原菌である。また院内感染の主要な原因菌でもあり、近年、薬剤耐性菌の出現により治療に難渋する症例が増加し問題となっている。黄色ブドウ球菌の感染に対しては、白血球を中心とした生体防御反応が重要な役割を果たしており、血管内皮細胞は、IL-8などのサイトカインや様々な接着因子の発現を介して感染部位への白血球浸潤を調節している。以前よりいくつかの報告において、黄色ブドウ球菌は、初期の白血球浸潤を抑制し、感染を重症化していることが示唆されてきたが、そのメカニズムは不明であった。我々は、黄色ブドウ球菌が血管内皮細胞の IL-8 産生を抑制する因子を分泌していることを見出したが、IL-8 産生の抑制は、白血球浸潤の遅延に繋がると考えられる。そこで菌の培養上清から、抑制因子の精製、同定を行うとともに、その作用について解析を行った。

菌の培養上清から抑制因子を分離・精製し、N 末アミノ酸配列の解析から、抑制因子は、黄色ブドウ球菌の β -hemolysin (β -toxin, sphingomyelinase C) と判明した。 β -hemolysin は、細胞膜脂質スフィンゴリエリンを分解する酵素活性を有し、ヒツジ赤血球に対して溶血活性を示すことが知られており、精製したタンパクも濃度依存的に溶血作用を示した。血管内皮細胞に対する抑制作用を調べたところ、 β -hemolysin は、TNF- α 刺激による IL-8 産生を抑制するとともに好中球の浸潤を阻害した。また Cell-ELISA による解析から、接着因子 VCAM-1 の発現を抑制したが、ICAM-1、E-selectin 発現には影響しなかった。EMSA において、 β -hemolysin の NF- κ B 活性化に対する作用を調べた結果、阻害作用は見られなかった。

以上の結果から、黄色ブドウ球菌の β -hemolysin は、血管内皮細胞に作用して、IL-8 産生を抑制し好中球の浸潤を阻害する働きを持つことが明らかとなり、病原因子としての新しい機能が示された。

10月13日(土)

[第2日目]

新感染症レクチャー
パネルディスカッション

マクロライド耐性マイコプラズマ肺炎への対応

○佐々木次雄

国立感染症研究所 細菌第二部

不思議なことに、1999年以前には日本ではマクロライド耐性 *Mycoplasma pneumoniae* は見出されていなかったが、2000年より日本中で見出されるようになり、分離株でも PCR 陽性株の遺伝子解析でも同じように平均15%がマクロライド耐性 *M. pneumoniae* になっている。同じような現象は、中国や韓国でも報告されているので、マクロライド耐性 *M. pneumoniae* は今では日本のみならずアジア諸国にも広くいきわたっていると考えられる。

細菌におけるマクロライド耐性機構には、排出ポンプ機構、酵素による不活化、標的部位の修飾などがあるが、*M. pneumoniae* のマクロライド耐性機構は、23S rRNA gene の Target site modification、によるものしか見出されていない。これまで調べた限りでは、*M. pneumoniae* のマクロライド耐性機構は、23S rRNA の Domain V の2063、2064のアデニンの変異と2617のシトシンの変異によるもので、他の細菌で見出されている Domain II やリボ蛋白 L4 や L22 での変異は見られていない。

マクロライド耐性及び感受性 *M. pneumoniae* に感染した患者群における病状の違いを38℃以上の有熱期間で比較したところ、マクロライド耐性群の有熱平均期間8日間に対して、感受性群では5日間だった。マクロライド投与前の有熱期間には両群で違いはなかった。マクロライド投与期間における有熱期間もマクロライド耐性群が有意に長く、マクロライド投与48時間後に有熱を示した者もマクロライド耐性群が有意に多く、マクロライド投与後に医者が投与薬剤を変えたケースも耐性群に有意に多かった。このように、マクロライド耐性 *M. pneumoniae* が蔓延してくると、臨床医の間でもマクロライドの効きが悪いと感じられるケースも出てくるものと思われる。

ここでは *M. pneumoniae* 感染症の実験室診断法とマクロライド耐性遺伝子の検出方法を中心に我々の実験データを紹介する。

真菌症起因菌の臨床的問題とその対策

○榎村 浩一

帝京大学大学院医学研究科・医学部 医真菌研究センター／ゲノム解析リサーチ・センター

キノコ、カビ(糸状菌)、あるいはコウボ(酵母)と呼ばれる真菌は、人類が最も古くから認識し、利用してきた微生物である。真菌は自然界において主に動植物由来の有機物を分解することにより、環境の維持を担っている。ヒトの生活との関係を顧みれば、その産業的利用は有史以前にさかのぼり、味噌、醤油、パン、酒、ビール、抗菌薬をはじめとして枚挙にいとまがない。

一方、真菌によってもたらされる健康障害としては、感染、アレルギー、中毒等を想起できる。蠕虫や蛔虫等の寄生虫を除けば、真菌が人類にとって初めて「発見」された微生物であったのと同様に、真菌症は最も古くから認識されてきた感染症であった。しかしながら、感染症としての真菌症は、永らく症例こそ多いものの生命予後とは無関係な、軽微な皮膚疾患(みずむし、たむし、および癬風)に過ぎなかった。

しかし、医学・医療の高度化によって可能となった様々な高度救命医療、拡大手術、臓器移植の普遍化と、抗菌薬、抗腫瘍薬、および免疫抑制薬の頻用に伴って、致命的な内臓真菌症は、概ね1980年代から徐々に新興感染症として注目されはじめ、今日においては診断治療上最も難渋する、最も重要な日和見感染症の一つとなっている。

本邦で大きな問題となっている内臓真菌症起因菌(*Candida* 属、*Aspergillus* 属等)は、内因性または環境中の日和見菌であり、感染力・病原性共に強くはない。そのため、これらの菌は原則として健康者に感染し得ない上、患者から他の免疫攪乱患者へ二次的に感染することもない。また、医療が及ばなかった時代において、症例は弱毒真菌による感染が成立する以前に原疾患によって失われていた事も想像に難くない。従って、内臓真菌症は高度医療が一般化するまでは、事実上存在し得なかったものと考え、今日まで真菌症が「感染症」としてスポットライトを浴びてこなかった歴史も理解しやすい。よって本症研究の歴史は短く、研究者の層はむしろ薄いことから、近年の本症症例数の急増にもかかわらず、真菌症に対する学術的・臨床的対応は甚だ後れていると言わざるを得ない。

そこで、真菌と真菌によって生じる健康障害について概説し、現状の問題点を論ずる。

会務関係資料

関東支部総（例）会

評議員名簿

日本細菌学会関東支部総(例)会

支部長	回	年	月 日	総(例)会長	会場
寺田 正中	0	昭和22	11. 16～17	寺田 正中(慈大)	東大 医
	1	23	11. 14～15	寺田 正中(慈大)	東大 医
	2	24	11. 13～14	寺田 正中(慈大)	北里講堂
	3	25	11. 12～13	長谷川秀治(伝研)	伝研
	4	26	6. 22～23	滝田 順吾(北里研)	北里講堂
	5		11. 15～16	滝田 順吾(北里研)	北里講堂
	例1	27	2. 23	寺田 正中(慈大)	慈大
	6		6. 20～21	小林 六造(予研)	公衛院
例2		9. 13	緒方 富雄(東大 医)	東大 医	
	7		11. 14～15	小林 六造(予研)	公衛院
秋葉朝一郎	例3	昭和28	6. 27	中村 敬三(日医大)	日医大
	例4		9. 19	清水 文彦(東医歯大)	東医歯大
	8		11. 6～7	秋葉朝一郎(東大 医)	東大 医
	例5	29	6. 18	小林 正芳(家畜衛試)	家畜衛試
	例6		9. 25	土屋 毅(順大 医)	順大 医
	9		11. 13～14	清水 文彦(東京歯大)	東京歯大
	例7	30	6. 18	矢追 秀武(横浜市医大)	横浜市医大
	例8		9. 24	平野 憲正(東京女子医大)	東京女子医大
	10		11. 18～19	牛場 大蔵(慶大 医)	北里講堂
	滝田 順吾	例9	昭和31	6. 23	米沢 和一(東京歯大)
11			11. 16～18	小島 三郎(予研)	公衛院
代行	例10	32	6. 29	田崎 忠勝(信大 医)	信大 文理
沼田 岳二	12		11. 15～16	大黒 勇(東医大)	新宿文化会館
	例11	33	7. 4～5	三橋 進(群馬大 医)	伊香保会館
	13		11. 14～15	白土 寿一(日大 歯)	日大 歯
牛馬 大蔵	例12	昭和34	5. 29～30	越後貫 博(千葉血清研)	千葉血清研
	例13	35	4. 27～28	児玉 威(神奈川衛研)	神奈川勤労会館
	14		11. 13～14	後藤 正勝(東大 医)	東大 医
	15		11. 11～12	工藤正四郎(伝研)	公衛院
	例14	36	6. 23～24	相磯 和嘉(千葉大腐研)	千葉大 医
	16	16	11. 10～11	福留 勇(昭和大 医)	昭和大 医
工藤正四郎	例15	昭和37	6. 15～16	染谷 四郎(公衛院)	公衛院
	17		11. 15～16	辺野喜正夫(都衛研)	厚生年金会館
	例16	38	5. 24～25	福見 秀雄(予研)	公衛院
	18		11. 14～15	桑原 章吾(東邦大 医)	厚生年金会館
	19		11. 10～11	富井 武寛(慈大)	慈大

支部長	回	年	月 日	総(例)会長	会場
柳沢 謙	例18	昭和40	6.18	木村 義民(日医大)	都市センター
	20		11.10～11	相沢 憲(日大 医)	私学会館
	例19	41	6.2～3	柴田 重孝(家畜衛試)	小金井公会堂
	21		11.10～11	山本 郁夫(伝研)	野口記念会館
	例20	42	6.2～3	佐々木正五(慶大 医)	北里講堂
	22		11.16～17	広木 彦吉(日歯大)	私学会館
清水 文彦	例21	昭和43	6.14～15	清水 伝一(東大 薬)	東大 理
	23		11.12～13	横田 健(山梨衛研)	山梨県民会館
	例22	44	6.13～14	大園 卓(山之内中研)	野口記念館
	24		11.12～13	土田 毅(順大 医)	私学会館
	例23	45	6.25～26	岩原 繁雄(国衛試)	科学技術館
	25		11.11～12	中谷林太郎(公衛院)	農協ビル
大黒 勇	例24	昭和46	6.3～4	新井 正(千葉大腐研)	千葉大 医
	26		11.11～12	岩田 和夫(東大 医)	農協ビル
	27	47	7.20～21	三淵 一二(静薬大)	静岡県民会館
	28		10.30～31	柴田 重孝(家畜衛試)	農協ビル
	29	48	6.22～23	常松 之典(医科研)	山野ホール
	30		11.14～15	近藤 勇(慈大)	慈大
近藤 勇	31	昭和49	7.5～6	安斎 博(北里大)	北里大衛生学部
	32		11.20～21	善養寺 浩(都衛研)	都市センターホール
	33	50	6.26～27	高添 一朗(東京歯大)	野口記念会館
	34		11.10～11	吉岡 守正(東京女子医大)	東京女子医大
	35	51	6.25～26	田所 一郎(横浜市大 医)	横浜教育文化センター
	36		11.18～19	黒川 正身(予研)	野口記念会館
吉岡 守正	37	昭和52	6.24～25	本間 遜(医科研)	農協ホール
	38		11.29～30	斎藤 和久(慶大 医)	野口記念会館
	39	53	6.15～16	山岸 三郎(千葉大 薬)	薬学会館
	40		11.9～10	木村 貞夫(帝京大 医)	帝京大臨床大講堂
	41	54	7.6～7	松井 清治(北里大)	神奈川県民ホール
	42		11.20～21	尾形 学(東大 農)	野口記念会館
中谷林太郎	43	昭和55	6.5～6	田中 信男(東大応微研)	エーザイホール
	44		11.27～28	小松 信彦(昭和大 医)	野口記念会館
	45	56	6.25～26	片山 有夫(城西歯大)	野口記念会館
	46		10.17～18	橋本達一郎(筑波大)	筑波大臨床講堂
	47	57	6.26	松橋 直(予研)	公衛院
	48		11.11～12	吉田 耕作(聖マリアンナ医大)	聖マリアンナ医大臨床講堂
合田 朗	50	昭和59	11.7～8	加藤 巖(千葉大 医)	野口記念会館
	51		6.19	五島瑳智子(東邦大 医)	こまばエミナース
	52	60	11.16～17	深沢 義村(山梨医大)	山梨県民文化ホール
	53		6.7	光岡 知足(東大 農)	野口記念会館
	54		11.21～22	神中 寛(防衛医大)	野口記念会館

支部長	回	年	月 日	総(例)会長	会場
木村 貞夫	55	昭和61	6. 2	吉川昌之介(医科研)	東邦生命ホール
	56		10. 16～17	寺脇 良郎(信州大 医)	松本市中央公民館
	57	62	6. 8	金井 興美(予研)	野口記念会館
	58		10. 15～16	緒方 幸雄(杏林大 医)	野口記念会館
	59	63	6. 4	黒坂 公生(慈大)	慈大
	60		11. 15～16	秋山 武久(北里大 医)	神奈川県民ホール
徳永 徹	61	平成1	6. 3	河西 信彦(昭和大 医)	昭和大学上条講堂
	62		10. 12～13	橋本 一(群馬大 医)	水上・ホテル聚落
	63	2	6. 9	渡辺 武彦(日本歯大)	野口記念会館
	64		11. 13～14	山口 英世(帝京大 医)	私学会館アルカディア市ヶ谷
	65	3	6. 12～13	河野 恵(東薬大)	野口記念会館
	66		11. 7～8	中野 昌康(自治医大)	地域医療研修センター
島村 忠勝	67	平成4	6. 19～20	島村 忠勝(昭和大 医)	昭和大学上条講堂
	68		11. 5～6	金ヶ崎士朗(医科研)	医科研講堂
	69	5	6. 24～25	川上 正也(北里大 医)	グリーンホール相模大野
	70		11. 5～6	故長田恭明(第一製薬)	長井記念館
	71	6	6. 22～23	工藤 泰雄(都衛研)	北とぴあ
	72		11. 10～11	吉田 孝人(浜松医大)	遠鉄ホテルエンパイア
吉川昌之介	73	平成7	6. 22～23	三瀬 勝利(国衛試)	予研
	74		10. 26～27	新井 俊彦(明治薬大)	こまばエミナース
	75	8	6. 27～28	澤井 哲夫(千葉大 薬)	千葉大学けやき会館
	76		11. 13～14	内山 竹彦(東京女子医大)	東京女子医大弥生記念講堂
	77	9	6. 26～27	奥田 克爾(東京歯科大)	アルカディア市ヶ谷
	78		10. 30～31	竹田 多恵(小児医療センター)	横浜ロイヤルパーク
内山 竹彦	79	平成10	7. 10～11	中江 太治(東海大 医)	いこいの村あしがら
	80		11. 25～26	大 壽士(日本医大老人研)	スクワール麴町
	81	11	6. 29～30	平松 啓一(順天堂大 医)	順天堂大学有山記念講堂
	82		11. 18～19	林 英生(筑波大 基礎医)	サンレイク土浦
	83	12	11. 20～21	渡辺 治雄(国立感染症研究所)	国立感染症研究所
	84	13	11. 26～27	奥田 研爾(横浜市大 医)	神奈川県民ホール
85	14	11. 21～22	笹川 千尋(医科研)	医科研講堂	
神谷 茂	86	平成15	10. 30～31	神谷 茂(杏林大 医)	横浜ベイシエラホテル&タワーズ
	87	16	11. 5～6	井上 松久(北里大 医)	北里大薬学部コンベンションホール
	88	17	10. 20～11	小出 幸夫(浜松医大)	アクティシティ浜松コングレスセンター
渡辺 治雄	89	平成18	11. 16～17	池 康嘉(群馬大 医)	伊香保温泉・森秋旅館
	90	19	10. 12～13	荒川 宜親(感染研・細菌第二)	国立感染症研究所戸山庁舎

日本細菌学会関東支部総会評議員名簿

(任期：平成18年1月1日～平成20年12月31日)

役 職	氏 名	所 属
第90回支部総会長 活性化推進委員会	荒川 宜親	国立感染症研究所 細菌第二部
活性化推進委員会	石原 和幸	東京歯科大学 微生物学教室
学術集会委員会	遠藤美代子	東京都健康安全研究センター 微生物部
編集委員会	岡村 登	東京医科歯科大学医学部 保健衛生学科
活性化推進委員会	川本 進	千葉大学真菌医学研究センター 分子機能研究部門 機能形態分野
活性化推進委員会〈委員長〉	北里 英郎	北里大学医療衛生学部微生物学研究室
学術集会委員会	下地 善弘	農業技術研究機構 動物衛生研究所 免疫制御研究室
編集委員会	進士ひとみ	東京慈恵会医科大学医学部 微生物学講座第2
学術集会委員会〈委員長〉	関崎 勉	農業技術研究機構 動物衛生研究所 感染症研究部
学術集会委員会	滝本 博明	北里大学理学部 生体防御学講座
学術集会委員会	平井 義一	自治医科大学医学部 感染・免疫学講座細菌学部門
編集委員会〈委員長〉	槇村 浩一	帝京大学医真菌研究センター
編集委員会	森田 耕司	杏林大学保健学部 臨床微生物学教室
支部会長	渡辺 治雄	国立感染症研究所 細菌第一部

(50音順)

第90回 日本細菌学会関東支部総会〈講演抄録集〉

発行日 平成19年10月5日
発行者 第90回日本細菌学会関東支部総会事務局
〒208-0011 東京都武蔵村山市学園4-7-1
国立感染症研究所・細菌第二部
TEL：042-561-0771
FAX：042-565-3315

制作 Next COMPANY **Secand** 株式会社 セカンド
〒862-0950
熊本県熊本市水前寺4丁目39-11
TEL：096-382-7793
FAX：096-386-2025